

# 恵庭市ガーデンデザインプロジェクト —北のガーデンシティを目指して—



令和5年10月20日  
恵庭市長 原田 裕

1

## 今日の話題

1. 恵庭市の概要
2. 花の拠点整備事業
3. 緑と語らいの広場(えにあす)整備事業

2

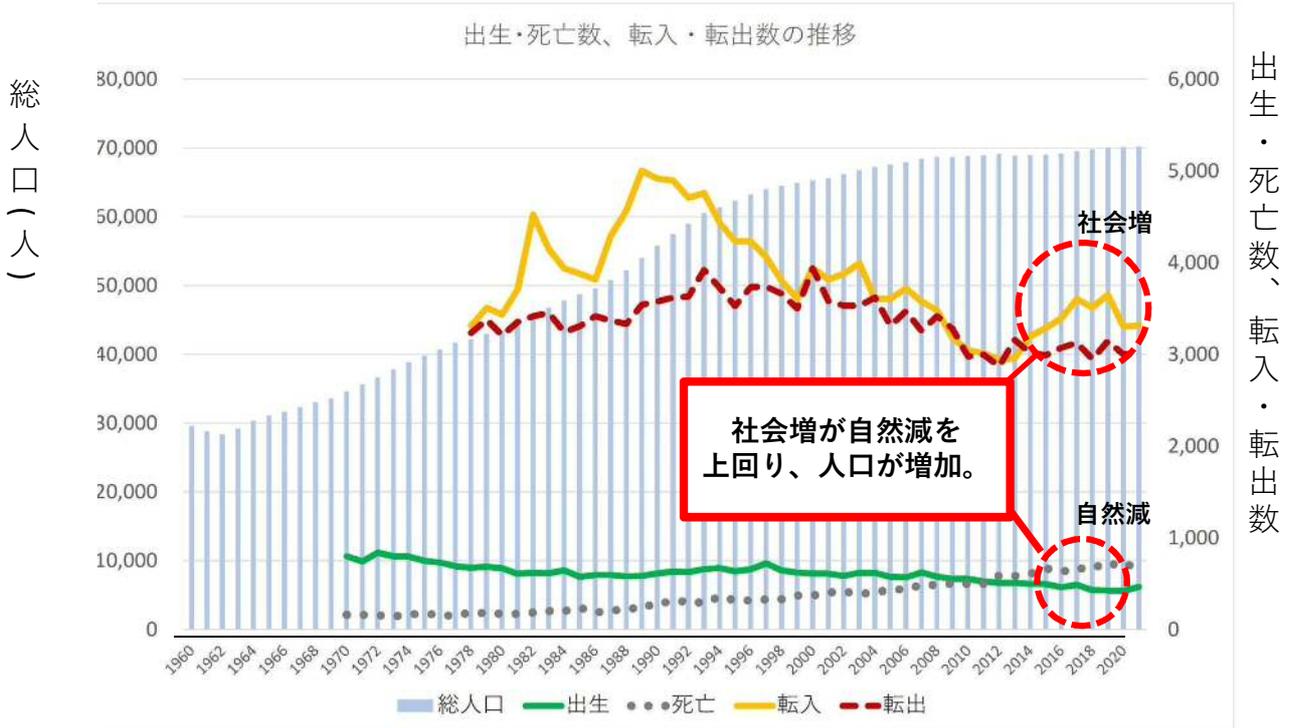
# 1. 恵庭市の概要

## 恵庭市の位置



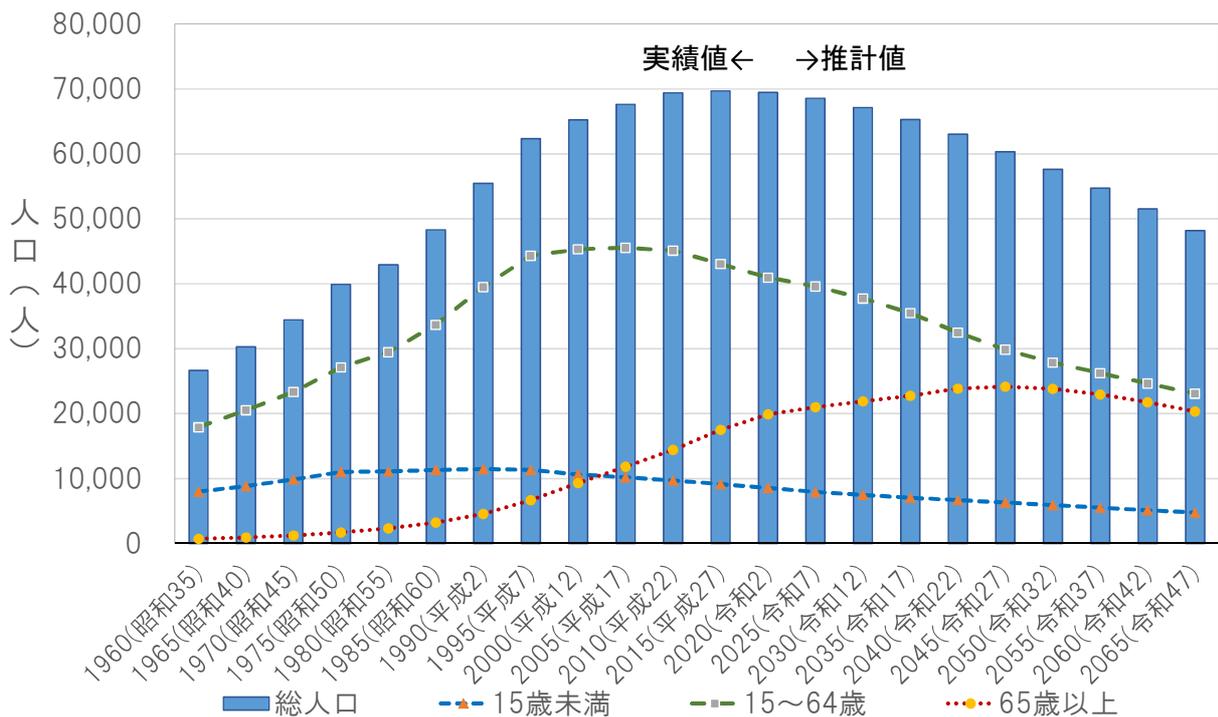
# 恵庭市の人口推移

70,276人(令和5年7月末現在)



資料：恵庭市統計書 5

# 恵庭市の人口推計



資料：国勢調査／国立社会保障・人口問題研究所 6

# ガーデンデザインプロジェクトの概要

## ● 花のヴィレッジ



- ① 住宅地整備 約3ha  
 1) 花の拠点整備と連携したオープンガーデン住宅地整備  
 2) 環境に配慮したスマートタウン整備  
 (約60宅地・戸当300㎡以上を想定)



- ② 花の拠点整備 約6ha  
 (道と川の駅の拡張(公園整備))  
 1) 現保健センターの改修によるガーデンセンター整備  
 2) 直売所の新設(花・野菜)  
 (ガーデンをイメージ・マルシェ等)



- ③ かわまちづくり事業  
 1) 河川管理者(国)と連携した漁川河川空間の環境整備(親水護岸・散策路等)

## ● 駅周辺の賑わいづくり



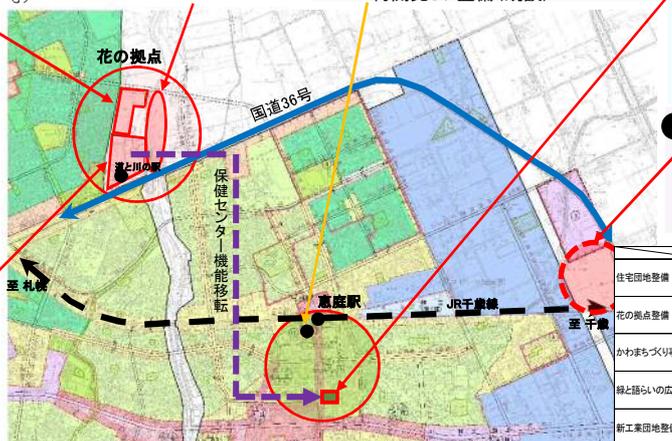
再開発ビル整備(既設)



- ④ 緑と語らいの広場整備  
 1) 保健センター機能の移転にあわせ、健康増進施設・図書館等の複合施設を民間活力により整備  
 (地上2階・延床面積3,800㎡、フィットネス・ヨガ、保管物等)

## ● 工業団地の用途拡大

- ⑤ 戸磯地区に新たな工業団地開発  
 新たな工業団地を開発し、就労促進移住定住の促進を図る(10ha)  
 ⑥ 既存工業団地の用途拡大の検討  
 (自社工場製品モニター販売など)



	平成29年	平成30年	平成31年	平成32年
住宅団地整備		都市計画手続	造成・販売・建築	販売・建築
花の拠点整備	基本設計	設計・用地確保	造成工事・建築	工事・供用開始
かわまちづくり事業	計画策定	事業調整	予算要求	工事着手
緑と語らいの広場整備	設計・建築着手	供用開始		
新工業団地整備	関係機関協議	都市計画手続	造成造成・広告	広告・販売

7

# ガーデンデザインプロジェクトのねらい

① 職・住・観光等、広範囲な機能、環境整備を複合的、一体的に実施し、移住定住、雇用、交流人口などの幅広い効果を創出

② PPPの積極的な推進

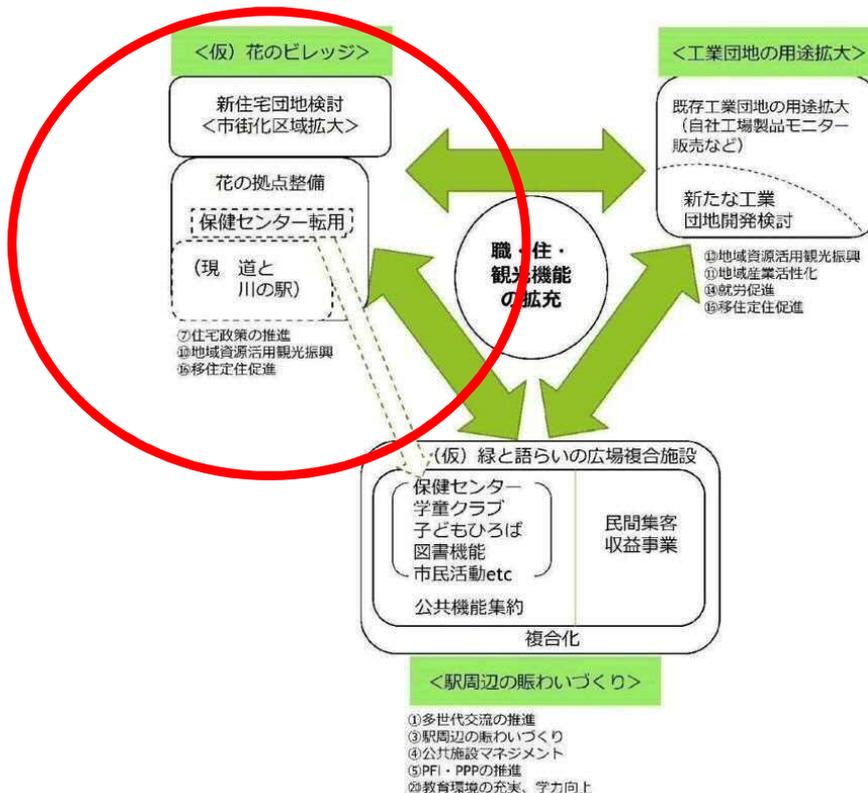
③ 計画・整備・運営にいたる庁内の横断的な取り組みによるスピード感のある事業展開

8

## 2. 花の拠点整備事業

9

### 花の拠点整備事業の位置づけ



10



## 花の拠点整備事業

### ○花の拠点整備事業(P-PFI活用事業)

(1)宿泊施設：フェアフィールド・バイ・マリオット・北海道えにわ、暮らしを恵む庭集会施設  
 ⇒滞在期間の長期化や新たな公園利用者の創出を目的とした宿泊施設(公募対象公園施設)と、本市の花のまちづくりの原点でもあるオープンガーデン(個人の庭)を体感できるような休憩所(特定公園施設)を一括で整備することとしてP-PFIによる公募を実施。

(2)花の拠点魅力向上エリア：スターバックスコーヒーはなふる恵庭店、恵庭おむすびあびす、市民花壇  
 ⇒「農畜産物直売所かのな」の移転に伴う跡地に新たな便益施設を導入することを目的に、年間を通じた賑わい創出が可能な施設(公募対象公園施設)と、地元企業が出店できるスペース及び公園利用者がくつろげるような空間(特定公園施設)を一括で整備することとしてP-PFIによる公募を実施。  
 ※提案により、旧かのなの建物の撤去も民間事業者負担により実施。



### 【P-PFI活用によるメリット】

- 管理許可期間を最長20年(10年+延長10年)とすることができるため、民間事業者の投資リスクが低く、参入しやすい。
- 施設整備に民間事業者の資本を投入できるため、公的負担を大幅に軽減できる。
- 公募対象公園施設で生じる利益の一部や、立地に対する使用料を公園の維持管理費に充当できる。
- 協定や公募要領の範囲内であれば民間事業者の裁量による運営が可能であり、賑わいづくりのために民間事業者の持つノウハウを最大限に活用できる。

開催決定

2022

# 全国都市緑化 北海道フェア

開催時期  
2022年6月下旬～1か月程度

メイン会場  
恵庭市 はなふる(花の拠点)周辺  
※道と川の駅 花ロードえにわ隣接

主催 北海道、恵庭市、公益財団法人都市緑化機構

## 恵庭市の緑化への取り組み

1961年に地元の有志によって設立された「花いっぱい文化協会」がきっかけとなって住民主導による取り組みが始まり、現在では、街の大通りや商店街、駅などの公共施設、個人の庭に至るまで花で飾られ、市民、生産者、専門家、行政が一体となって花と緑の美しいまちを作り上げています。



## 全国都市緑化北海道フェア基本方針

1. 北海道ならではの花とガーデンの魅力で人々を感動させるフェア
2. 希望と活力あふれる「花のまちづくり」を次の世代に継承するフェア
3. 日々の暮らしの深い「地域の絆」「豊かな地域社会」につながるフェア
4. 花と緑の取組の歴史と経緯を踏まえ、多様な主体が協力的に連携するフェア

## 過去の全国都市緑化フェアの様子

第38回 全国都市緑化信州フェア(2019年)      第39回 全国都市緑化よこはまフェア(2018年)



全国都市緑化フェアとは、国民一人ひとりが緑の大切さを認識するとともに、緑を守り、たのしめる意識を深め、緑がもたらす快適で豊かな暮らしがあるまちづくりを進めるための普及啓発事業として、昭和58年(1983年)から毎年全国の持ち回りで開催されている花と緑に関する国内最大級のイベントです。

2022年6月の開催に向け、  
詳細等決まり次第随時発表致します。



### 3. 緑と語らいの広場(えにあす)整備事業

# ガーデンデザインプロジェクトの主な事業



緑と語らいの広場(えにあす)



## 「えにあす」の位置



従前(旧営林署官舎跡地)

# 開発コンセプト サードプレイスー「もうひとつの居場所」をつくるー

やりたいこと！

## 「えにあす」の主題

### STEP 1 「そこへの場所」をつくる

「えにあす」には3つの要素があります。それは「健康」「交流」「知育創造」です。図書館を中心に市民が集まることとする3つの要素を融合させながら施設全体を抜った様々なプログラムへと展開し、たくさんの市民が集まる「そこへの場所」をつくりたい。



### STEP 2 「そこからの場所」をつくる

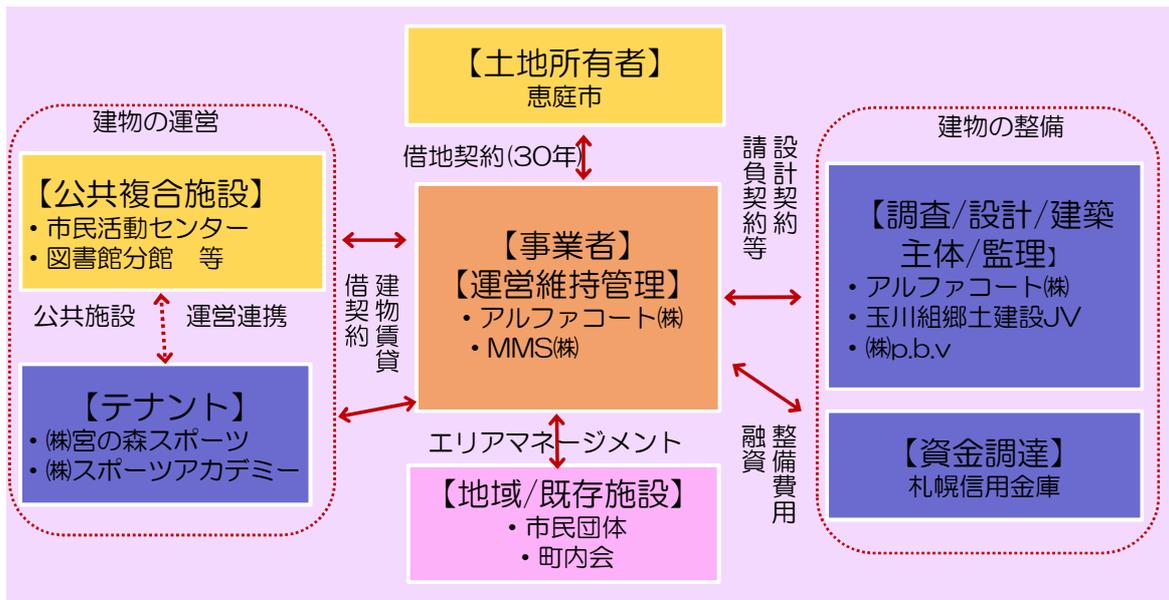
「えにあす」に集まった市民の様々な活動が、やがては駅前や地域に広がって行くような「そこからの場所」をめざします。そのために市民連携の「運営会議」を設け、課題解決やアイデアの共有を行っています。



自宅ほどはガラガラではありません。けれども会社や学校のような規則はなく、自分のルールで時間が流れます。家と社会の間にある、用事もなくもついでに訪れてしまうような場所。学び、考え、思い強く、ひとりの時間や、本を読み、思いっきり遊び、おしゃべりをして笑いあう。みんなの時間。ひとりでも同じには誰かがいて、隣の人は別の時間を過ごしている。そんな心地よい距離感がここにはあります。目的はみんなそれぞれです。多くさんの目的のちよつと手前にある。はつと息をつく場所。もうひとつの時間を過ごしたための、もうひとつの居場所です。

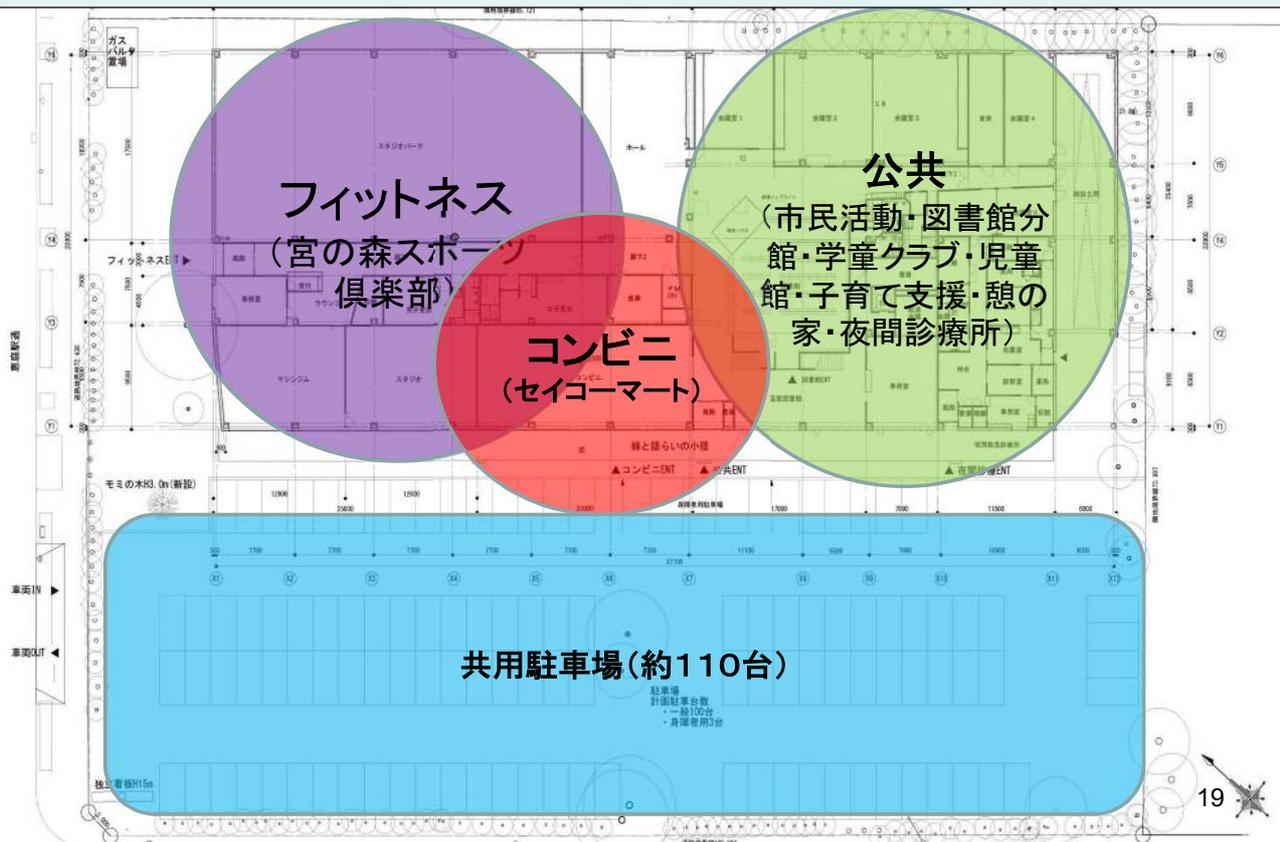
資料: えにあすコンセプトブック(アルファコート株式会社 2018) 17

## 「えにあす」事業スキーム

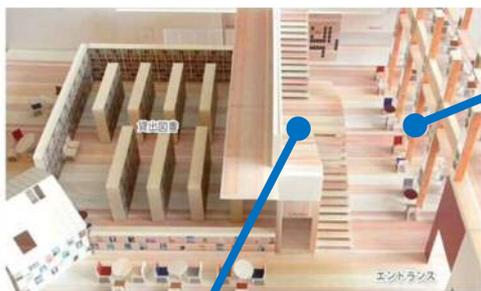


- ・恵庭市が所有する土地に30年間の定期借地権を設定し、民間事業者が建物建設、所有、維持管理運営及びそれに伴う資金調達を実施する。
- ・民間事業者は、事業期間にわたって市に地代を支払う。
- ・公共機能が入居する建物部分については、市が民間事業者から借り受け、市の直営または指定管理等により運営する。

## 「えにあす」 導入機能



## 「えにあす」利用状況



学校帰りの高校生、子ども達で賑わいのある1階ホール



クリスマスイルミネーション



## 「えにあす」利用状況



2階「ガリ勉天国」は自習する学生に人気のコーナー



1階ホールでは地域のイベントも開催される



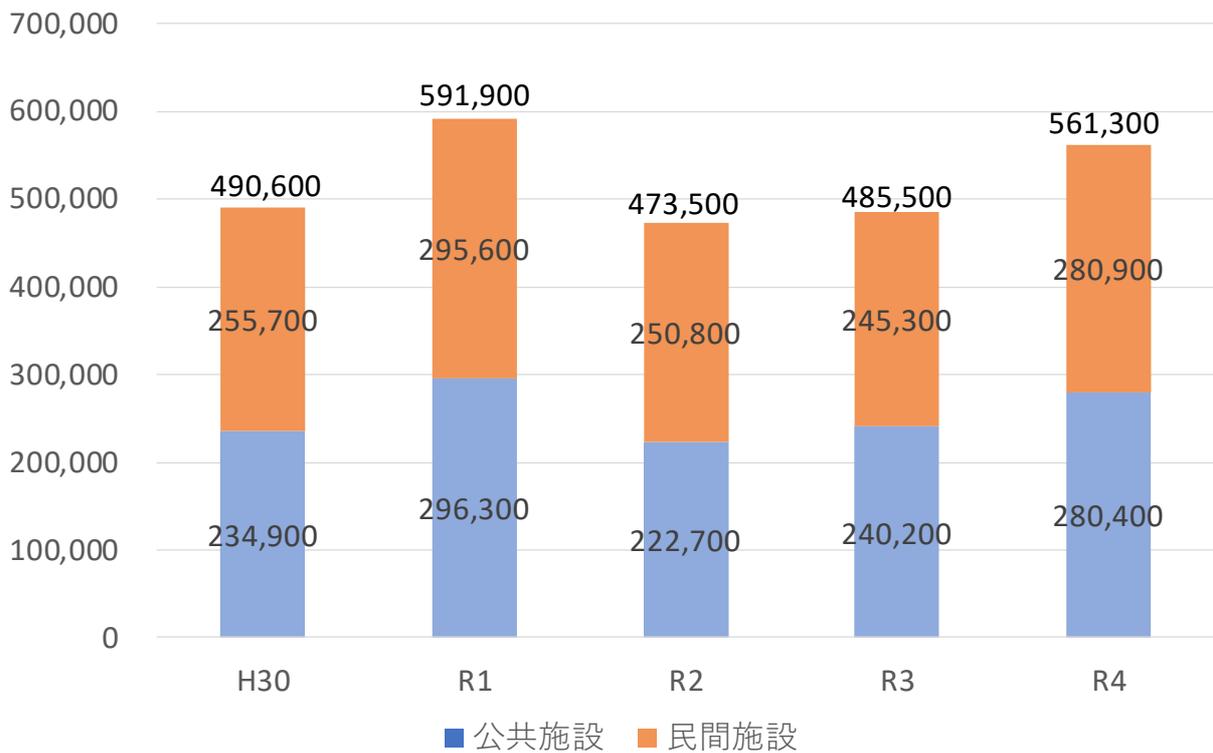
学童保育は1階会議室を活用



地域FMスタジオ

21

## 「えにあす」利用人数



22